

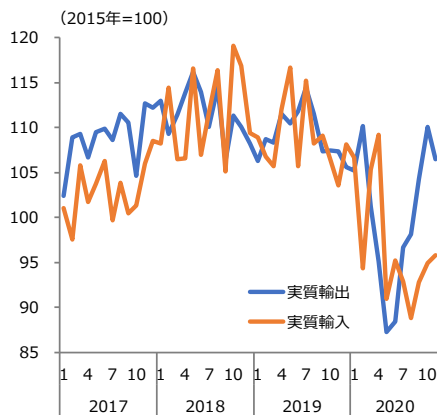
## 日本

## 貿易統計 (2020年11月)

## 輸出はコロナ前と同程度の水準、外需縮小がリスク

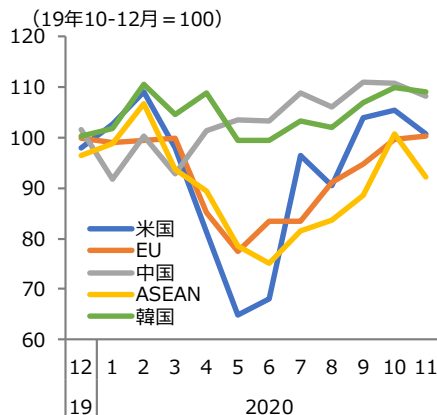
政策・経済センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

## 1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 2 実質輸出：国別

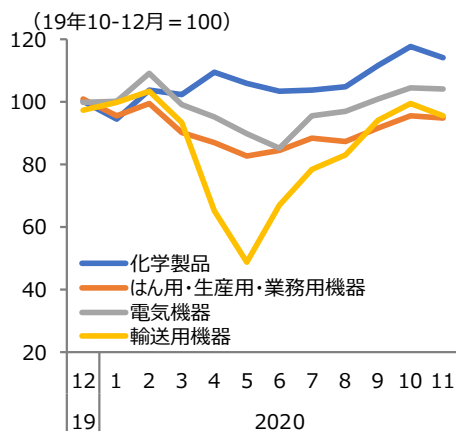


## 評価ポイント

## 今回の結果

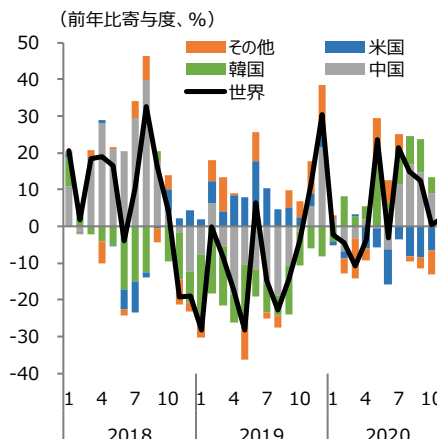
- 20年11月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比▲3.3%、実質輸入は、同+0.9%（図表1）。貿易収支（季節調整値）は、+5,702億円。輸出は6カ月ぶりに減少も、コロナ前（19年10-12月平均）と同程度の水準まで回復している。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、EUを除き減少も、コロナ前と同程度の水準まで回復（図表2）。米国（前月比▲4.3%）向けは、6月以降の回復を牽引してきた、輸送用機器やはん用・生産用・業務用機器が減少したが、急回復の反動とみられる。経済回復の早い中国（同▲2.3%）向けは、はん用・生産用・業務用機器が全体を押し下げ、2カ月連続の減少。もっとも、水準としてはコロナ前を1割程度上回っている。
- 品目別でも、コロナ前と同程度の水準まで回復（図表3）。特に、半導体製造装置は、中国向けや韓国向けを中心に前年比で増加傾向にあり、他の品目と比較し大幅に減少していない。コロナ禍で生じた、リモートワークやデジタル化対応、5G等の半導体需要の高まりが背景にあるとみられる（図表4）。

## 3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 4 半導体製造装置



## 基調判断と今後の流れ

- 輸出は、国内外の経済活動再開により回復しつつある。
- 先行きは、緩やかな回復を予想する。輸出は11月は減少も、海外経済の回復を背景にコロナ前と同程度の水準まで回復した。ただし、足元では、欧米を中心に感染が再拡大、一部の国・地域では地域や業種を限定した防疫措置の再強化が実施されており、海外経済の回復スピードの鈍化が予想される。4月・5月の感染拡大時のような、サプライチェーンの停滞や生産の停止・縮小といった供給要因での輸出の停滞は生じないとみるが、海外需要の回復ペース鈍化が輸出回復の重石になるとみる。
- 下振れリスク要因は、海外での防疫措置強化の長期化、対象地域・業種の拡大だ。欧州では感染再拡大を受け、年末年始にかけ外出行動制限やサービス業を中心とした営業規制が再度強化されており、景気回復ペースが鈍化する可能性がある。このような、防疫措置再強化の動きが多くの国・地域で拡大した場合、各国の回復ペースが鈍化、海外需要の縮小により、輸出の回復スピードも鈍化する可能性がある。